

## 広里地区の調査・事業の進め方について(案)

### 広里地区の調査・事業のフロー

【目的】 「釧路湿原自然再生事業基本方針」に基づき、広里地区の自然をパイロット的に再生すること。

#### 【予備作業・検討】

- ・ 植生群落区分により地区内をゾーニング  
( 6、7区分(ヨモギ・牧草、ヨシ、ハンノキ、ササキ等)となる。)
- ・ 地区内の再生事業の優先検討順位を検討  
( 農地造成跡地の湿原再生、ハンノキ林の湿原再生 とする。)
- ・ 再生サイト(再生区)に対するリファレンスサイト(標準区)の候補地検討  
( 広里地区内に設定が可能。)

#### 【目標設定】

農地造成跡地 1960年代後半(=広里地区の農地造成前)の姿に再生することを目標とする。

ハンノキ林 調査結果を踏まえ、検討する。

#### 【評価項目の検討】

評価項目：植生(組成・構造)  
動物(タンチョウ・キタサンショウウオ等の注目種、生物多様性)  
物理環境(水位、水質、地下水の流れ)

#### 【調査】

広里地区詳細環境調査(平成14年度調査)

植生詳細解析調査：現存植生と環境条件(水位、水質、地形等)の対応関係を明らかにし、農地造成跡地やハンノキ林の処理の方針を検討する。

地下水動態解析調査：地区内の地下水収支(動態)の現況を把握・分析し、再生サイトでの最適な事業内容を検討する。

野生生物等詳細調査

タンチョウ・キタサンショウウオの生息実態・特性調査

詳細地形図(標高図)作成調査、植生略図(現存・過去)作成調査

調査結果を踏まえ、【目標設定】及び【評価項目の検討】にフィードバック

#### 【事業内容・手法の検討と仮説設定】

#### 【事業実施】

#### 【モニタリング実施・評価、仮説検証】

#### 【事業見直し】